

# たぐすい

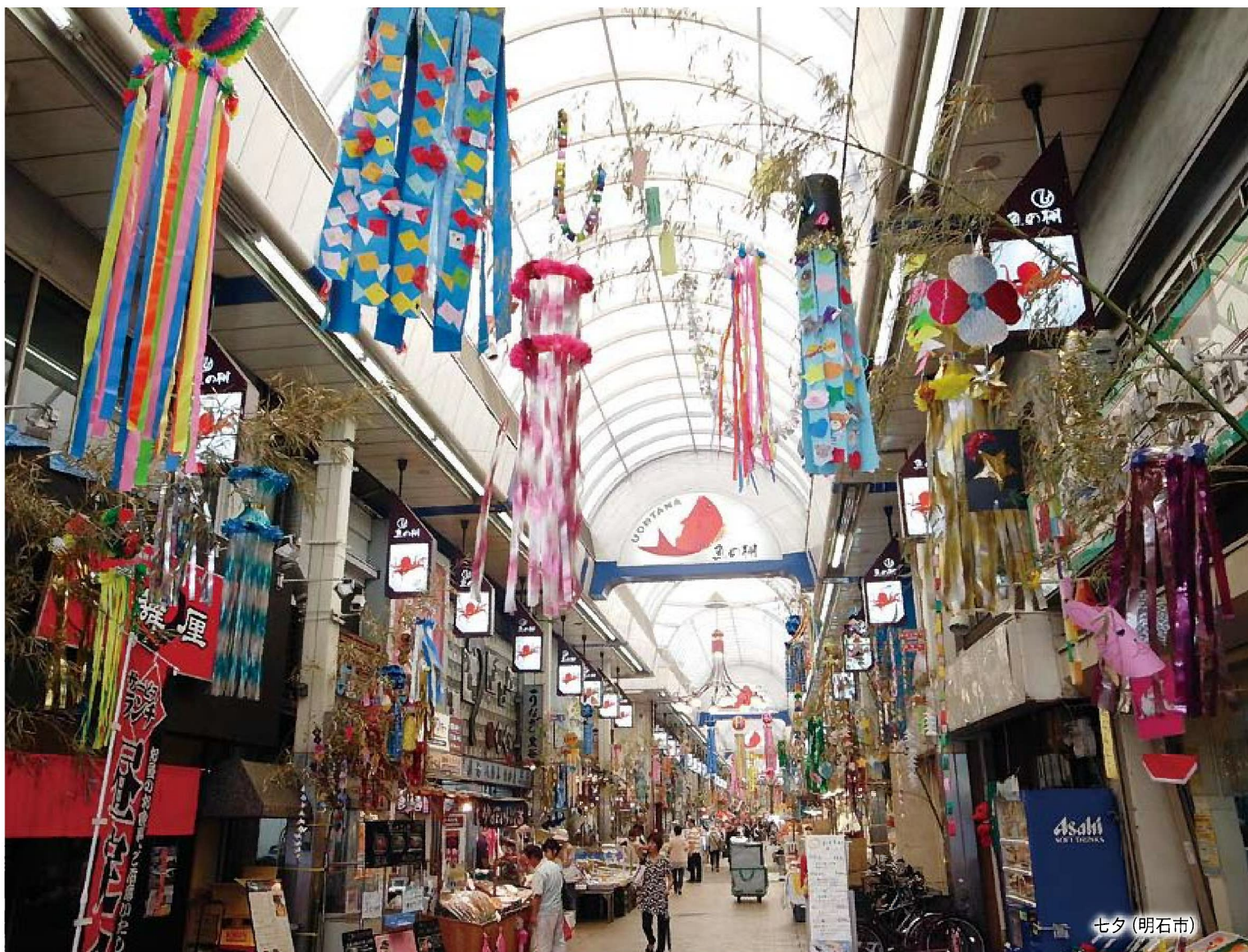
TAKUSUI  
No. 693

7

July, 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



## 半夏生にタコを食べよう! ~明石市漁業組合連合会の取り組み~ 各団体で総会が開催

《今月の海上安全標語》 ~ 夏ですね! ~

暑い日が続いていますが、アレ、忘れていませんか?

夏の海 <sup>ライジャケッ</sup> LJ着けてよ 暑いけど

では、今月も安全操業で!



# ようこそ

「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。  
主に船を直進させるときの号令として使われる。

## ある夫婦

兵庫県農政環境部水産課資源増殖室 主幹 眞鍋 厚



春先から、我が家を頻繁に訪ねて来る夫婦がいる。彼らは、普段から同じような服を着て、ほとんど一緒に行動し、夫婦どちらか一方だけで来ることはない。とても仲が良い彼らを見ていると、あと何年かしたら…とか、ウチの嫁とは…とか、余計なことを考えてしまう。

その彼らは、毎度アポなしでやって来る。曜日はもちろん時間も自由で、こちらの都合は一切構ってくれない。ウチに来ると、腹が減ったと食事をし、後片付けもせずおしゃべりに興じ、運動不足の解消が知らないが、私や嫁さんに構わず走り回り、散々やりたい放題したあとツイッと帰っていく。

しかし、そんな彼らも5月に小さなマイホームを建てた様子で、その新居は、自分たちで吟味した建材をふんだんに使った流行のデザイン住宅らしい。場所は教えてくれないが、ウチで見せる素行の悪さと裏腹に、なかなか堅実なところがあるものだと、嫁と一緒に感心している。

ここ最近では、我が家にやって来る機会が減っていて、少しだけ心配している。新居で暮らし始めた彼らは、どうやら忙しいようで、ひよっとすると子育て中なのかもしれない。

一方、我が家では、エンゲル係数を暴力的に増大させ、あらゆるモノを消費しまくっていたひとり息子が昨年の春から大学進学と同時に下宿を始め、劇的に落ち着いた暮らしとなっている。

そんな中での彼らの来訪は、私と嫁のちよつとしたイベントになっていて、次に来るときは、記念写真でも一緒に撮ろうかなど、カメラの準備をしたりしている。

賢明な皆さんはお判りと思うが、彼らは一般的に「メジロ」と呼ばれる一夫一妻の小さくて可愛らしい鳥のことで、我が家の大切なお客様となっている。

## CONTENTS

No.693 July. 2014

- 2 ようこそ
- 3 瀬戸内海再生へ確かな歩み  
山田 隆義氏が漁船保険中央会会長に就任
- 4 「半夏生」にタコを食べよう!!
- 5 第39回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催  
県立水産技術センター見学会・研究発表会のご案内
- 6 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会の魚食普及事業について
- 7 2団体総会が開催される JF兵庫信漁連・兵庫県漁業共済組合
- 8 通常総会を開催 共水連兵庫県事務所・兵庫県漁業信用基金協会  
(一社)播磨漁友会総会終わる
- 9 播磨地区漁協女性部連合会通常総会・研修会  
但馬地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
- 10 兵庫県機船底曳網漁業協会総会終わる  
淡路漁協職員協議会 通常総会
- 11 播磨地区漁協職員協議会 通常総会  
海の事故ゼロキャンペーン
- 12 大型船シミュレーター研修会を実施!  
海難事故をなくそう
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「七夕」(明石市)

七夕(たなばた・しちせき)の起源は諸説ありますが、もともと日本の神事であった「棚機(たなばた)」と、織姫・彦星伝説、中国の機織り、裁縫の上達を願う行事「乞巧(ぎこうきょうでん)」の3つが習合したものとされています。

江戸時代には、短冊のほか、豊漁を祈願する“投網”、長生きを願う“千羽鶴”をはじめとする7種の飾りを吊るすようになりました。写真は、明石市の「魚の棚商店街」で、たくさんの方が願いが込められた色とりどりの飾りが吊るされてきました。年に一度、星に願いを託すこの習慣がいつまでも引き継がれていきますように…。

彦星と織女と今夜逢う 天の川門に 波立つなゆめ  
(読み人知らず:万葉集)  
(彦星と織姫が逢う今夜だけは、天の川に波よ立つな 決して…)

## 瀬戸内海再生へ確かな歩み 現行法改正案 秋の臨時国会で成立目指す

瀬戸内海再生議員連盟（塩崎恭久会長）が2年間をかけて勉強会や環境省との折衝を重ね、去る5月に取りまとめられた瀬戸内海環境保全特別措置法の改正案は、6月16日、参議院事務総長に提出されました。自民、公明両党の共同提案として、議連事務局長の末松信介参議院議員（兵庫）から手渡されました。提出にあたり末松議員は「政局に直接関わる案件ではないので、精力的に取り組んでほしい」とされたが、通常国会の会期末を1週間後に控え、集团的自衛権の行使問題等々政局も慌ただしい時期であり、審議未了のまま継続審議とされ、秋の臨時国会での成立を目指すことになりました。末松議員は改正案について「明確な立法意志を示したかった」と議員立法に強い意欲をみせられるとともに、「超党派の議員連盟にもっていききたい」と与野党を問わずに瀬戸内海の問題に対処すべきと議連の拡大を求めています。

前号でも報告しましたが、改正法案は、瀬戸内海を「生物の多様性・生産性が確保された豊かな海」とする基本理念が設定され、水質の保全・管理だけでなく、水産資源の持続的確保にも力を入れ「きれいな海」から「豊

かな海」への転換を図る。これを実現するために国が基本計画をつくり、府県が実情に応じた計画を立てるというもの。府県計画の策定には湾灘協議会からの意見が大きな意味をもつと思われ、この場での漁業関係者の発言・提案は重要となります。また、瀬戸内法の所管は環境省であっても、藻場・干潟の復活や現行垂直護岸を傾斜型に転換など様々な課題に対し、農林水産省（水産庁）、国土交通省らが省庁の枠を越えて密接かつ横断的施策が講じられよう、湾灘協議会の内外に関わらず、その動向に注視することが重要です。

何れにしても、まずは「改正法案の成立」を願うものです。議連の皆さんには一層のご尽力を願っています。また、環境行政は「誰のために」「何のために」あるのか。人類が健全で快適な生活を確保し、次世代に円滑に引き継いでいくために「環境を整える」ことが本旨と考えるなら、今後、現議連が超党派議連として拡大発展することは総合的な環境行政へ大きな転換を意味するものであり、漁業者も大いに歓迎することだろう。

(U/T)

## 山田 隆義氏が漁船保険中央会会長に就任

漁船保険中央会は、6月23日（月）、通常総会を開催しました。役員人事では任期途中で上野 新作会長が退任し、後任に同会 山田 隆義副会長（兵庫県内海漁船保険組合長）が新会長に就任されました。





# 「半夏生」にタコを食べよう!!

～明石市漁業組合連合会の取り組み～

(一財)兵庫県水産振興基金



明石市漁業組合連合会(山本章等会長(JF西二見)以下明石市連)は、明石飲食業組合や明石観光協会などの団体と協力し、明石だこをPRするため、今年の半夏生(はんげしょう:下記参照)にあたる7月2日(水)にイベントを行いました。市内の小学校(28校)で給食メニューにタコを使った料理が出されたほか、街頭ではタコ料理が振舞われるなど、半夏生のこの日、市内は「明石ダコ」で賑わいました。明石市立明石小学校では3年生(約80人)が集まり、明石市連 山本会長をはじめ7名の漁業者による「明石だこ」の出張授業がありました。明石ダコの特徴や、実際の漁具を使った漁法の説明などの話に、児童らは興味深く聞き入り、生きたタコに触る体験では大きな歓声が上がりました。また、この日の給食には「キャベツと明石だこのドレッシングあえ」が登場し、給食を食べる児童らのもとに漁業者が出向き、



生きたタコに児童らから歓声が上がりました



長蛇の列となったタコ料理の振る舞い



タコが疑似餌に飛び付く場面を再現!



シートクラブの食育教室は明石市内各小学校で開催される

(写真は6月18日:明石市立人丸小学校)

タコに関する話をしました。同市によると7月中旬に再度「明石だこ」を使った料理を給食に出すとのことです。これまで半夏生を盛り上げる取り組みは各商店街などが自主的に行っていました。今年も8団体が連携し、市内各地で様々なイベントを催しました。JR明石駅前での「タコの天ぷら」

をはじめ、市内3か所でタコ料理が振舞われ、会場はタコを求める人たちが長蛇の列が出来ました。このほか、市内の飲食店では、タコにちなんだ8の付く価格でタコ料理が提供されたほか、5日には「半夏生七夕夜市」も開催され賑わいを見せました。山本会長は「マダコの漁獲量は日本一という兵庫県で、明石ダコは全国に知られるもの。地元の良いものを是非知って頂き、半夏生には明石だこ」といわれるよう定着させたい」と話されました。明石市連では、今回の取り組みとは別に、JF兵庫漁連の協力を得て、市内小学生を対象に食育教室も行っています。この教室は、昨年に行われており、タコなど地元の魚を子供たちが包丁を使って調理して食べてもらうことで、魚の美味しさとともに、広く水産物や水産物について知ってもらおうというものです。地元の魚を通じ、学校をはじめ地域振興に貢献する明石市連の活動は今後も続いていきます。

## 一口メモ

### 「半夏生」

夏至から数えて11日目を半夏生と呼び、関西では古くから田植えを終えた頃である半夏生にタコを食べる習慣があります。稲がタコの足のようになり根付くことを願掛けする意味や、タウリン・亜鉛を豊富に含むタコを食べ、疲労回復や夏バテ防止の意味合いがあります。

## 第39回

# 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催

JF兵庫漁連

本年、第39回目となる兵庫県漁民物故者合同供養祭（主催：JF兵庫漁連）が、6月11日（水）和歌山県の高野山大学松下講堂並びに慰霊塔前において厳かに執り行われました。

会場には県内漁業関係者ら215名が参列し、開会にあたり遺族代表の田中等さん（JF富島）と山



中チエミさん（JF但馬）の手で、平成25年度中に物故された140柱の芳名簿が祭壇に奉納されました。主催者代表として挨拶に立ったJF兵庫漁連 山田隆義会長は「本県が全国有数の水産県として今日あるのは、ここに合祀されたご尊

霊のご努力の賜物であり、在りし日の輝かしき業績に対し深く敬意を表します。残る我々は力を合わせて豊かな漁場を取り戻し、次世代に引き継ぐことを誓います。」とされ、続いて来賓を代表して兵庫県知事（県農林水産局 新岡史朗局長 代読）、JF全漁連会長（JF全漁連 大森敏弘常務理事 代読）から追悼の言葉をいただきました。その後、読経の流れるなか、主催者、ご遺族、来賓、一般参列者の順に焼香が行われ、JF兵庫女性連 森武美会長から全参列者に御礼が述べられ、供養祭は厳粛のうちに滞りなく終了しました。

これまでに合祀されたご尊霊は今回の140柱を含めて11,961柱となりました。心からご冥福をお祈りいたします。



## 県立水産技術センター見学会・研究発表会のご案内

兵庫県立水産技術センター（明石市二見町南二見22-2）では、8月11日（月）に下記のとおり見学会及び研究発表会を開催します。多数のご来場をお待ちしています。

### 【見学会】9:30~12:00

水産のお話と施設見学ミニコース（10:30~ 1回限り。1時間）、魚拓づくり、チリメンモンスター探し、プランクトン観察を実施します。

### 【研究発表会】14:00~16:25

ズワイガニの行動追跡、アサリ種苗生産、効率的なカキ養殖、瀬戸内海東部海域の漁場環境、イカナゴシンコ漁等について、最新の調査研究成果が報告されます。

プログラムなど詳細は<http://www.hyogo-suigi.jp>のイベント情報、または当センター普及担当（078-941-8602）までお問い合わせください。



# 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会の魚食普及事業について

## 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会事務局

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大西 正起会長：J F伊保）は昨年より県内の大学での魚食普及に力を入れており、様々な活動を行っているところです。6月には2大学で取り組みを行いましたのでご紹介いたします。



大好評を得た試食会



7月8～10日の3日間、関西学院大学生協で「LOVE SEA丼」第4弾が発売されました。

昨年が続いて2回目となる「消費流通検討交流会」を、6月24日（火）関西学院大学（西宮市）で行いました。

午前の同大田和 正孝教授（大輪田塾運営委員）の講義の中で大角 生馬氏（J F坊勢）が「青年部活動の新たな展開について」資源保護活動から魚食普及活動へ」（第19回全国青年・女性漁業者交流大会…流通・消費拡大部門水産庁長官賞受賞）を講演し、学生らに「もっと地元の魚を食べたい」と呼びかけました。また、昼食時にはJ F兵庫漁連の加工品「明石ダコのやわらか煮」や「イカナゴのくぎ煮」のほか、漁船連メンバーが用意した「茹でカワツエビ」などを学生らに提供し、感想などを聞きました。ここでは「カキのバジルソースあえ」が多くの学生から好評を得ていました。午後は、田和教授の講義を傍聴するとともに、漁青連メンバーらと

学生の意見交換の場も設けられるなど、漁業についてしっかり話し合うことが出来た一日でした。



大角氏の講演の様子

### 関西学院大学（西宮市）で

### 「消費流通検討交流会」を開催

### 流通科学大学で

### 「兵庫のり」について講演



真剣な眼差しで講義を聴くゼミ生たち



講義を担当した藤澤部長

流通科学大学では5月に消費流通検討会（既報・拓水No.692）を行いました。その後、同大商学部後藤 こそ恵准教授から「兵庫のり」の新しい商品づくりを進めていくため、ノリについて詳しく学びたいとの要望があったため、6月11日（木）に同大において、J F兵庫漁連 兵庫のり研究所 川崎 周作所長と 榎 ひょうこぎよれん販売 藤澤 憲二部長を講師に、漁青連、J F兵庫漁連のり海藻事業本部の関係者と後藤ゼミ生あわせて約30名が集まる「兵庫のり」の勉強会を開催しました。

川崎所長はノリの生態から生産方法、養殖環境など多岐にわたる内容で講義をされ、藤澤部長はのり共販など加工・流通に関する内容で講義を行いました。今回、「兵庫のり」について学んだゼミ生らは、ノリの特徴などを生かした商品づくりをすすめるとしており、どのような商品を提案して頂けるのか楽しみです。





## 平成26年度 2団体総会が開催される

### JF兵庫信漁連・ 兵庫県漁業共済組合

では、目標額には達しなかったものの前年度実績を上回ることができたと、融資残高については、設備投資が控えられている状況の中ではあるが計画値に近い水準となったこと、また、収支状況については、前年度を上回る結果を残すことができたことについて

「会員各位に対し謝辞を述べた後、平成26年度の事業計画として、「省エネ対策事業に係る融資対応に万全の準備を整えていくこと、体制整備として、最大限の工夫と努力を行い、新たな仕組み作りに取り組んでいくこと、また、広域信漁連への取組みとして相手県を絞り込んだ県域を越えた合併への本格的な検討に着手していること」を話され、本年度については、平成25年度を上回る実績となるよう鋭意取り組んでいくと挨拶されました。

### 兵庫県漁業共済組合 川越組合長は挨拶で、「ぎよさいで

ぶらす・安心経営」として3ヶ年全国運動の最終年度として、漁業収入安定対策事業の「積立ぶらす」を活用した加入推進に取り組んだところ、計画には若干届かなかったものの、前年を上回る実績を上げることが出来た。これは制度内容への理解が深められたことや県・市町村からの掛金助成等の効果が十分に発揮された結果だ」と謝意を表され、今後も未加入の漁協・漁業種類への利用拡大



兵庫県漁業共済組合 川越組合長理事

を図るべく漁業経営の安定に取り組みでいきたいと述べられました。議事は、平成25年度の事業報告をはじめ、平成26年度事業計画等が上程されました。事業報告では、平成25年度の加入実績は217億円で、前年実績に比べ8千万円上回る結果となり、支払関係では、のりの色落ち被害が大きかった等により、支払の少なかった前年度を約11億円上回る、13億円の支払となり、事業収支・管理収支の総合では4千万円の黒字となったことが報告されました。

JF兵庫信漁連、兵庫県漁業共済組合の2団体による合同総会が、6月27日（金）明石市内のホテルにて開催され、JF組合長はじめ県・系統団体の関係者などあわせて約80名が出席しました。この後、主催者挨拶、来賓の方々の挨拶の後、2団体総会の共通議長にJF明石浦 戎本 裕明組合長が選任され、両団体から上程された議案はすべて承認されました。

### JF兵庫信漁連

挨拶に立った山田会長は、平成25年度の事業実績として「貯金残高について



JF兵庫信漁連 山田代表理事会長



## 平成26年度 通常総会を開催

共水連兵庫県事務所(兵庫県JF共済推進本部)  
兵庫県漁業信用基金協会

共水連兵庫県事務所(兵庫県JF共済推進本部)と兵庫県漁業信用基金協会は、6月9日(月)明石市内のホテルにおいて、それぞれ平成26年度通常総会を開催しました。

共水連兵庫県事務所(兵庫県JF共済推進本部)からのメッセージ

平成25年度活動報告及び平成26年度活動計画についてご審議いただき、原案どおり可決決定されました。今後も漁業者の負託に応えるため、より一層の努力を



兵庫県JF共済推進本部総会で挨拶をする吉岡本部長



基金協会総会の様子

してまいる所存ですので、会員の皆様のご支援助を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫県漁業信用基金協会からのメッセージ

会員並びに関係団体より多数の皆様にご出席いただき無事全ての議案が可決決定されました。

協会の使命を果たすべく、役員一同いっそうの努力をはかって参ります。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 希望をもって営漁を! 正副会長ら全員を再任

### (一社)播磨漁友会総会終わる

6月30日(月)、姫路市内のホテルで一般社団法人播磨漁友会(井上仁会長・16会員)の通常総会が開催され、平成25年度事業報告及び収支決算額承認の件、任期満了に伴う役員選任についてほか、2議案が上程され、何れも原案通り承認可決されました。開会にあたり井上会長は、魚佃安、燃油高騰などで漁業経営は依然厳しい状況が続いているとしたあと、「世界的に水産物が見直され、価値観が上がってきている。水産物が否定されるようなことはないと思うので、希望をもって日々営漁に頑張ってほしい」と挨拶された。また、来賓出席者を代表して県水産課 近藤 敬三課長、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務理事が挨拶されたあと、議事は井上会長を議長に円滑に進められ、松本 力副会長の閉会挨拶で総会は終了しました。なお、役員改選は、予め3地区から推薦された理事・監事候補者が全会一致で選任され、別室協議の結果、正副会長、代表監事は現職者が再任されました。





# 平成26年度 播磨地区漁協女性部連合会 通常総会・研修会

平成26年6月18日(水)  
兵庫県立水産技術セン  
ター大研修室にて、播磨  
地区漁協女性部連合会  
(本多春代会長・JF室  
津)の通常総会が開催さ  
れました。

10会員のうち10会員  
(うち委任状出席2) 53  
名と兵庫県立水産技術  
センター 山村雅雄所長、  
一社) 播磨漁友会 井上  
仁会長はじめ来賓13名の  
出席のもと、平成25年度  
事業報告及び収支決算、  
同26年度事業計画及び収  
支予算が承認され、魚食  
普及の一層の充実、天然  
せっけんの普及など環境  
問題への取組、ライフ  
ジャケット着用推進、女  
性の声を反映させ  
社会参加に務  
めることなどを  
通し、明るく豊かな漁村づくりをすすめることが確  
認されました。

総会のあと、NPO法人あったか演劇研究会によ  
る「創造力をもっと豊かに！心と体のストレッチ」  
と題した研修があり、講話のほか歌を聴いたり楽し  
く身体を動かし、心身ともにリフレッシュしまし  
た。心と体の健康を維持するために、豊かな食生活  
が基本となることを再認識した部員たちは、今後の  
魚食普及活動に、さらに自信を持って臨もうと決意  
を新たにしました。



ストレッチでリフレッシュしました！



NPO法人あったか演劇研究会の講演

## 平成26年度但馬地区漁協女性部連合会

### 通常総会・研修会

但馬地区漁協女性部連合会(山中  
悦子会長)は6月13日(金)、JF但  
馬津居山支所で、平成26年度通常総会  
を開催し、会員のほか、但馬水産事務  
所村口重治所長はじめ関係団体の出  
席者らあわせて約60名が出席しまし  
た。会議では、平成25年度事業報告・  
収支決算、同26年度事業計画・収支予算  
が承認され、滞りなく総会は終了しま  
した。

山中会長は「燃油の高騰や魚価安  
ど厳しい状況にあるなか、女性部とし  
ては魚食普及に今後力を入れていき

たい」と挨拶され、続く来賓挨拶でも  
魚食普及活動への期待が述べられまし  
た。

総会後の研修会では、豊岡健康福祉  
事務所食品業務衛生課 吉田 裕行専門  
官から「食中毒の予防について」と題  
し講演がありました。県内での食中毒  
の発生状況や予防方法のほか、原因菌  
ごとの特性と対処法などが説明されま  
した。家庭はもちろん、イベントなど  
で食品を扱うことが多いので参加者は  
熱心にメモをとっていました。



挨拶をする山中会長



吉田専門官の講義風景

## 燃油高騰や魚価安、船価高騰…代船建造進まず危機感 兵庫県機船底曳網漁業協会総会終わる

燃油の高騰、資源減少、魚価の低迷など厳しい漁業経営が続くなか、本県沖合底曳網漁業は老朽化する漁船の代船建造が進んでおらず、また、後継者問題なども重なり平成25年度漁期をもって2隻が廃業されるという残念なニュースもあり、漁業構造の抜本的な改革が必要との見方もあります。漁業界全体に共通するかもしれませんが但馬の基幹漁業は大きな転換期を迎えています。

そんな状況のなか、兵庫県機船底曳網漁業協会（吉岡修一会長・49会員）の通常総会が7月1日（火）午後、JF香住本所で開催され、平成25年度事業報告ならびに決算承認の件、同26年度事業計画（案）並びに予算（案）承認の件ほか3議案が上程され、何れも原案通り承認されました。

また、総会のあと、同協会の役員と県系統団体の専務らによる系統懇談会が開催され、話題提供として、昨年11月に設置された「但馬地区沖合底曳網漁業活性化委員会（漁船対策）」の検討報告が行われました。報告では、平均船齢が20・6年（法定耐用年数9年）と老朽化が進んでいるが、燃油高騰で購買代金比率が約30〜40%と上昇していることや、キャッシュフローは燃油価格の低位推移や魚価安定の頃は10年程度で代船取得の自己資金が確保できていたが、今はその余裕がないこと、近年、漁獲物の鮮度維持のための冷凍設備機器は必需だが、これを設備した80トン越船は4億円程度の建造費を要するが、2億円程度の水揚げと諸経費増大ではとても代船建造に踏み切れないなど現況が説明された。水場高の向上が望めないなか、大型投資を賄うだけの資金余剰は見込めず、船価の引き下げと経費の削減が経営課題としています。このため「もうかる漁業創設支援事業」の活用や日韓新漁業協定対策で条件緩和された近代化資金の活用、基金協会の無保証人型漁業融

資促進事業の検討、燃油対策として漁業経営セーフティネット構築事業の加入と併せて漁獲共済の効率的活用を図るなど、具体的方策が示されています。今後、委員会は意欲のある個別経営体について実践的な現状分析と経営計画の相談など代船建造を後押ししたいと締めくくっています。懇談の中で「代船建造には数億円を要するが、どう考えても今の経営環境では大型投資に見合う計画が立てられない」等、意欲はあるが今一歩代船建造に踏み切れない苛立ちや苦悩の心情が船主の皆さんの発言から伺えました。沖合底曳網漁業に限らず経営構造の改善など自主努力は当然ですが、他方、政治的に、国内各種産業ともに安定経営が可能な燃油価格水準に設定する施策のことや、魚価の向上、漁業生産の環境整備など外的要因を改善することが漁業経営の安定と漁業経済の活性化につながるため、組織と人の結集が求められます。



## 淡路漁協職員協議会 通常総会

平成26年度の淡路漁協職員協議会（JF沼島・田村富弘会長、会員110名）の通常総会が、6月7日（土）本市内で開催されました。

議案審議に先立ち、主催者挨拶の後、（一社）淡路水交會 前田 吉計前会長とJF兵庫漁連 突々 淳参事から来賓祝辞がありました。

前田前会長は、「海のことには誰よりも知っていると自負してきた。海水温で魚の状況が分かっていた。しかし、日本海で鯖がたくさん獲れるなど温暖化で海環境が様変わりしてきている。水交會としては資源管理の重要性を認識し、大きくなるまで獲らないよう啓発してきた。業界は厳しい状況にあるが、いろいろ知恵を出し、団結して乗り越えてもらいたい」と後輩に送る言葉を切々と述べられました。

突々参事からは、「長年取り組んできた瀬戸内海再生法が、今国会提出の運びになった。豊かな瀬戸内海の実現に向けて大きなステップになる。

燃油対策は、60円を目標に他産業とのバランスが図れないといわれるレベルまで努力してきた。別メニューもあわせ、かなり漁家の家計負担を軽減できると思っている」と情勢報告がありました。

職員功労表彰に続き、平成25年度の事業報告（研修旅行と系統事業を巡る懇談会が中心事業）と決算及び平成26年度の事業計画と予算等が審議され、3本の議案は原案どおり承認されました。





# 播磨地区漁協職員協議会 通常総会



播磨地区漁協職員協議会の平成26年度通常総会が、6月24日（火）、播磨漁友会館にて、代議員26名（委任状5名含む）が出席し開催されました。

総会開会にあたり藤田次男会長（JF西二見）が挨拶、続いて、来賓を代表して姫路農林水産事務所 山中健志郎所長補佐、（一社）播磨漁友会 井上仁会長、JF兵庫 魚連 田中稔彦組織統括本部長がそれぞれ祝辞を述べられました。

藤田会長が議長となり、平成25年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、平成26年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案が審議され、原案通り承認されたのち、任期満了に伴う役員改選が行われ、下記の8名の役員が選任されました。互選の結果、再選された藤田会長は、「諸先輩方の歴史を語り継ぎながら、漁業経営の安定のため漁協職員としての知識の習得と連携強化に努めたい。」と挨拶しました。

新役員（敬称略）

- 会長：藤田次男（JF西二見）、副会長：松田匡以（JF江井ヶ島）・岡田満史生（JF坊勢）、理事：尾形直紀（JF林崎）・沢浦博光（JF家島）・平田一典（JF赤穂市）、監事：畳谷元和（JF明石浦）、倉田昌彦（JF室津）

# 海の事故ゼロキャンペーン

平成26年度の重点項目は次の3つです。

**重点事項1 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進**

～いつでも見張りをしっかりと～

① 常時適切な見張りの徹底  
大型船、小型船ともに見張り不十分による海難が多発しています。「船影の視認」や自動操舵任せで見張りを怠るおそれがある事故も頻発に起きています。まずは、見張りが重要です。

② 船舶間コミュニケーションの促進  
艦載VHFや声帯番号を活用する等、早期に船舶間のコミュニケーションを図り、相手船の動きを把握することで適切な操船を行うことが重要です。

**重点事項2 プレジャーボートの発航前点検**

～出港前には発航前点検～

発航前点検をしっかりとね!

小型船のエンジントラブルが増えています。出航前には、

- ① 燃料
- ② エンジンオイル
- ③ バッテリー電圧
- ④ 冷却水 など

の志摩海防府の点検を確実に行うほか、定期的なメンテナンスを心がけましょう。

# 「なくそう。海の事故」

**重点事項3 ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保**

～万が一に備えよう～

常時着用

● ライフジャケットの常時着用 ● 連絡手段の確認 ● 海の緊急通報

海上保安庁へのお問い合わせは、最寄りの官署へ

第一管区 海上保安本部(小)	電話 0134-27-1118
第二管区 海上保安本部(徳島)	電話 077-282-1113
第三管区 海上保安本部(香)	電話 045-211-1116
第四管区 海上保安本部(名古屋)	電話 052-661-1611
第五管区 海上保安本部(神)	電話 076-391-5533
第六管区 海上保安本部(京)	電話 020-351-1111
第七管区 海上保安本部(北)	電話 091-321-2033
第八管区 海上保安本部(福)	電話 0773-76-4100
第九管区 海上保安本部(徳島)	電話 020-285-1116
第十管区 海上保安本部(高松)	電話 020-250-1800
第十一管区 海上保安本部(福)	電話 098-667-1113

2014 7/16~31  
全国海難防止強調運動  
海難0への願い

海で楽しく 安全に

## 海の事故ゼロキャンペーン

大好きな海で事故を起こしては、はしくはから安全が一歩も進めず。目指そう海の事故ゼロ。

2014年7月16日～7月31日 全国海難防止強調運動

全国海難防止強調運動  
7/16～31 はじまる!

# 津居山青壮年部 大型船シミュレーター 研修会を実施！

JF兵庫漁連

大型船の操船シミュレーターを用い、大型船の動力性能を体験する研修会が6月7日(土)に独立行政法人 海技教育機構 海技大学校(芦屋市)で行われ、JF但馬津居山青壮年部員15人が参加しました。

この度の研修会は、津居山青壮年部からの強い要望があり実現したもので、参加者の安全への意識の高さがうかがえました。

研修会は座学と体験の2部構成で開催され、1部の座学では「行動分析学からの安全対策へのアプローチ」なぜ安全行動が根付かないか」をテーマとして、神戸運輸監理部の筒井宣利調整官による講演がありました。

2部の体験では、海技大学校航海科 岩瀬潔教授により操船シミュレーターを用いた研修が行わ



筒井調整官による行動分析学の考え方を用いた講義

れ、まず、大型船の中でも比較的動力性能の良いフェリーを設定し、夜間や悪天候、うねり等の条件での航行や船橋からの漁船の見え方を体験したほか、10万トクラスのタンカーを再現したシミュレーターを実際に操船し、感覚の違いを体感しました。

更に、救急救命講習として、同大学校航海科 濱田聡樹助手により訓練用の人形を用い、CPR(胸骨圧迫・人工呼吸)やAEDの使用方法等についての講習も行われました。

企画した津居山青壮年部の中西正行部長は、「貴重な体験が出来た。皆が安全への意識を持つことが重要」と話されたほか、参加の部員からは「圧迫止血などの怪我の応急手当てが知りたい」、「海上での事故事例から、どうしたら防げるのか知りたい」といった意見が出され、海上安全について考える有意義な時間が過ごせました。

## 海難事故をなくそう！

### ライフジャケットを着よう！

夏本番を迎え、暑くなってきましたがライフジャケットは着用しましょう。通気性の良いメッシュタイプや、膨張式のライフジャケットがありますよ。



固型式ライフジャケット  
モデル：西二見漁業協同組合理事 松本 久進さん (大輪田塾9期生)

### ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。  
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください



浮きます！

モデル：仮屋漁業協同組合 相田 欽司さん (大輪田塾9期生)

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください



## 小学生に食と農の 大切さを伝えるため、 田植え体験を青年部西脇 支部の部員らがサポート

JAみのり

西脇市の若手農家で構成するJAみのり青年部西脇支部は、このほど地元の子どもらに食と農の大切さを伝えようと、同市立西脇小学校3年生によるアイガモ農法での米づくり体験の応援に駆けつけました。同部員らが、米づくりを通して、地域の小学生と交流を図るのは今回が初めて。部員の藤原久和さん(47)が所有する同市蒲江のは場5アールで、部員4人がサポートする中、児童71人はコシヒカリの手植えを楽しみました。

同校は、食と農の大切さと生命の尊さを学ぼうと、藤原さんとアイガモ農法による米づくりを企画。これまで、藤原さんと同校で行っていましたが、青年部の発足を機に、地元の若手農業者自身が子どもらと交流しながら、地域農業や食の大切さを伝えていきたいと、今年から、西脇支部の部員がサポーターとして参加することとなりました。

最初に、藤原さんが「まっすぐに張ったロープの赤い印の部分に、苗2~3本を植えていきましょう。自分のところが植えられたら、他の子が終わるまで少し待ってね」と説明。その後、児童らは3班にわかれ、部員の「もうちょっと深く植えよか」「植えてるところは踏まないように」といったアドバイスを頼りに、楽しく苗を植えていきました。同校の高橋慶企さんは「幼稚園で一度植えたことがあるだけで、久しぶりに田んぼに入った。田植えはしんどいけど楽しかった」と笑顔を見せていました。

藤原さんは「未来を担う子どもたちに、毎日食べられる幸せや農業の大切さを、自分で体験することで知ってほしい。今後も、地域の農業者として、青年部として、体験をサポートしたい」と語りました。



児童に植え方をアドバイスする部員  
(西脇市蒲江のは場で)

同校では田植え後、アイガモを放鳥し、無農薬・無化学肥料で栽培。稲の生長とアイガモの成長を観察します。その後、部員らと9月末に稲刈り、脱穀を体験。収穫した米を使って、おにぎりの試食会を行う予定となっています。

## 第1回 「緊急通行車両担当会議」 を開催

兵庫県生協連では、4月22日(火)、兵庫県民会館にて「第1回 緊急通行車両担当会議」を開催。8会員生協・1関連会社から9名が参加しました。初めて開催されたこの会議は、2008年1月に兵庫県と兵庫県生協連が締結する「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定書」に基づき、応急生活物資の運搬および医療活動を円滑に行なうために緊急通行車両の許可がすみやかに得られるよう制定された事前届出制度について確認するために開催されました。

はじめに「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定書・同 実施細目」について共有化を行ない、続いて「緊急通行車両事前届出」の目的を確認し、さらに届出のメンテナンスについて意見交換しました。

参加した役職員からは「発災時に『緊急通行車両事前届出済証』を所轄警察署窓口を持参した場合、コピーでも交付を受けられるようになりませんか」「緊急通行車両事前届出が済んだ車両が事業所を移動した場合は届出が必要ですか」など活発な質問や意見交換が行われ、

- ① 発災時の交付申請には「緊急通行車両事前届出済証」の原本が必要であること
- ② 原本は車両保管でも、事業所保管でもよいこと
- ③ 届出車両が事業所を移動した場合は、届出が必要であること

などの点が確認されました。





# 旬に想う

写真と文  
遊方子



## 一天地六のサイの目に

◆日本におけるサイコロに関する記録は殆ど無いという。それは我が国が、古代文明の発祥地に比べ、数十世紀の遅れをとり文字による記録が皆無なためだ。奈良の平城京跡から『投げ棒』型サイコロが出土し、同時に独楽も出たため、遊びに使われていたものと判定された。六世紀末の中国の史書に「倭国の人は、囲碁や双六・賭博などの遊びが好きだ」と記されており、この頃からサイコロを振り、駒を進める遊びがあったようである。サイコロを使った賭け事に、出た目の数が多いのを勝ちとする目増（めまし）と呼ぶ単純なものや、サイコロを壺に入れて伏せ、数を当てる丁半博奕がよく知られている。

◆サイコロを振って出る目は、超人的な偶然によるものであり、そこに何か運命を示す神託を感じ、しばしば占いに利用される。このサイコロの持つ神秘的な性格に霊力ありと信じる見方もあって、現代も船霊信仰として受け継がれている。造船の際に『筒納め』という儀式を行い、ご神体にはサイコロ二個を帆柱の根元へ入れる。サイの目は、1を上6を下にし、船首側に3が来るように定めているという。こうした仕来りだが、信仰心をもって守り継がれている。

◆サイコロは立方体だと思っていたが、昔の古いや神託に使ったサイコロに見合う用具は、立方体でない自然物も利用していたようだ。子安貝を幾つか使って、貝に願い事を囁いて地上へ投げ落とす。貝がどの方向を向いたかで物事の是非を判断する。これはアフリカのある部族が行っている方法である。サイコロが今のように六面体の型に定着する以前は、木を削った投げ棒型のもの（平城京で出土）や羊の踝（くるぶし）の骨なども利用されていたようである。

◆ギャンブルは人間の本能に根ざすもので、あらゆる勝負事が『賭け』の対象になった。鶏や犬を闘わせたりするが、ローマでは人間とライオンが闘ったとある。江戸時代、相撲の勝敗を賭け、傷害事件や喧嘩が絶えぬため、相撲興行を禁止されたとかいいます。サイコロを振って出る目の合計が、偶数か奇数かを当てたり、コインの表裏で勝ち負けを決めたりと、生活の中に賭博の要素は数限り無い。野球賭博をした力士が除名追放されたり、八百長が発覚したりするが、サイコロを使う賭博は江戸時代に隆盛し、厳罰を課せられた事もある。「四の五のいな」は丁半を決めかねる優柔不断を叱る言葉だ。小さなサイに振り回されて面白い反面、人間の愚かしい一面も見えて来るのである。

## 大輪田塾だより

### 6月は2回開講しました



「漁業法は漁業者を守る法律」と中岸班長

6月の大輪田塾は、水産会館にて10日（火）、24日（火）の2回開講しました。10日（火）は「漁業法概要」で県水産課漁政班 中岸明彦班長を講師に迎え、漁業法の成り立ちや、漁業権の性格、漁業調整委員会などについて学びました。質疑応答では多くの質問がされるなか、プレジャーボートとの関係について質問した塾生は、講師から他県での事例や考え方が示され、理解が進んだようでした。

24日は「JF兵庫漁連の魚食普及事業」シートクラブについて、まずは「JF兵庫漁連の魚食普及事業」シートクラブについて、善次長からシートクラブの活動について話があり、料理教室に加え、コープこうべと連携した取り組みを学びました。また、魚食推進室 隅谷翠主任とシートクラブ 戸田美保子講師から、県内小中学校で行う「魚さばき教室」を再現していただき、実際にアジを3枚に卸しました。子供たちの安全を第一に考えた指導方法は、今後の魚食普及活動に役立つものになったようです。



中谷統括代理の講義



包丁の持ち方など丁寧な指導をされた戸田講師



田中次長の講義